

会員各位

日本華人教授会議は10月31日、中国社会科学院工業研究所所長金碚氏、同研究所研究員陳躍氏ら三人を迎えて中国経済についての交流を行った。一行は神戸市の受け入れで来日したが、その目的は阪神大震災の損害評価方法、資金の調達と使い方、その経済的効果などについての調査研究にあった。

筆者は日中科学技術文化センター創立30周年記念事業の一環として、「当局の四川大地震への対応」と題して論文を書き上げたところであった。そこで経済損害8000億元評価の正確性、被災地再建3年計画の必要資金1兆元の充足性などについて伺ってみた。金所長が言うには、経済的損失評価は大まかな数字で、日本のような緻密な計算はできない、資金調達とその効率的運用などについては多くの困難が伴うと話していた。

わが華人教授会議は地震発生後、救援募金活動、日本の経験資料翻訳などを通して一定の貢献をしてきたが、引き続き被災地再建三カ年計画に関心を払い、それぞれの専門を活かして各方面から支援することが望まれる。ここに筆者の前記創立30周年記念での講演原稿と論文を提供し、会員各位及び読者の参考に資したい。

凌星光

2008年11月1日